中学生連載企画

私たちのふるさと松山学 No.1

東中学校

秋山兄弟&正岡子規ミステリー

私たちが秋山兄弟や正岡子規に興味を持ったのは平成21年から23年にかけて放送されたスペシャルドラマ「坂の上の雲」がきっかけでした。「どこかで見た景色だな」「松山にはこんな歴史を作った人がいるんだな」と興味を持ち、調査をしました。

青木 優真さん（2年）

秋山好古は 大のお酒好き

一説では好古は1日に5合は飲んでいたそうで、戦争中でも水筒の中に酒を入れていたといわれています。でも酔って判断を誤ったりすることはなかったみたいです。

重松 花菜さん（2年）

秋山真之は いり豆好き

お母さんが作ってくれたいり豆が大好きで、軍服の中に入れ、ポリポリと食べていました。作戦を立てているときもきっと食べていたと思います。

岩佐 尚希さん（2年）

正岡子規は 柿が大好き

俳句の題材にしたのはもちろん、病気になっても食べ過ぎなくらい食べていたそうです。だから病気になってもたくさん俳句がつくれたのかも？

安部 華子さん（2年）

坂の上の雲 ミュージアム

小説『坂の上の雲』の主人公である子規や秋山兄弟ゆかりの資料や、明治の松山に関する資料などが展示され、小説を知らない人でも楽しめます。

吉川 怜旺さん（2年）

子規記念博物館

主に子規の生涯や子規が詠んだ俳句など、子規に関する資料がある博物館で、分かりやすく子規のことを知ることができます。

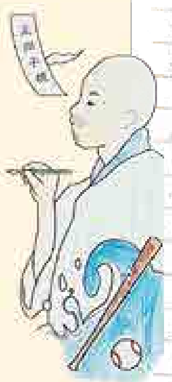
松山の歴史を大切にしていきたい

松山には正岡子規や秋山兄弟といった立派な人たちがいて、素晴らしい歴史を松山にたくさん残してくれました。このことを誇りに思い、これからも大切にしていきたいと思いました。

この企画では、市内の市立中学校の生徒が順番に、学校生活などで学んだ地域の歴史や文化・偉人などを紹介していきます。

主人公たちは こんな人!!

正岡子規



松山出身の明治時代を代表する文学者の一人。子規の俳句は目の前にあるものを絵に描いたようにありのままによむことが特徴。子規のよんだ俳句の句碑は現在松山市内のいたるところにあり、その多さは観光客が驚くほど。松山市が「俳都」といわれるほど俳句がさかんなまちになったのは子規のおかげ。

秋山好古

安政6（1859）年に伊予松山藩の下級武士の家に生まれる。陸軍大将。家庭の困窮により師範学校で学び、早くから経済的に独立し陸軍士官学校に入学。フランス留学後、日本騎兵の確立に貢献した。後にフランス軍人により「好古の人生は、世界最強の騎兵団を破るというただ一点に咲いている」と賞されたという。「日本騎兵の父」とうたわれた。

秋山真之

慶応4（1868）年3月20日に松山藩の下級武士・秋山家の五男として生まれた。真之は幼い頃はとてもやんちゃであった。正岡子規とは親友で、短歌を一緒に作ったりしました。真之の好物はいり豆である。日露戦争中もいり豆をかじりながら作戦を考えた。そしてロシアのバルチック艦隊を撃破という大きな功績を残したのである。

※主人公のイラストは坂の上の雲ミュージアムの塗り絵より
（作：大福理絵〈松山ビジネスカレッジクリエイティブ校卒業生〉）

先人と文化の読み物教材

「語り継ぎたい ふるさと松山 百話 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

子規や秋山兄弟に関するエピソードも多数収録

松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10～14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることができます。